

第7回 海老江下水処理場改築更新事業の環境監視に係る有識者会議 議事録

日 時 令和5年5月31日 15時20分～17時00分

開催場所 建設局北部方面管理事務所 大会議室

出席者

(委員) 近藤委員(座長)、藤川委員(座長代理)、山田委員

(事務局：建設局) 大野課長、六車課長代理、西尾係長

中家係長

(事業者：海老江ウォーターリンク株式会社) 中村社長、秋山統括管理責任者

(事業者：大成建設株式会社) 中野作業所長

議 題 2022年度 工事中の環境監視結果について(資料5)

議 事

(事業者より資料5 1.環境監視の計画(2～7頁)、2.工事内容(8～13頁)について説明)

近藤委員：ありがとうございます。では、この工事中の環境監視の計画と工事内容について、ご質問、ご意見等ございましたらよろしく願いいたします。

近藤委員：スライド10頁に工事工程が示されていますが、今年度の半ばぐらいでは工事が完了するかと考えて良いでしょうか。

事業者：スライドに示す工程が誤っております。実際には場内整備等が完了するのは2024年度の春頃になります。

(事業者より資料5 3.環境監視結果(常時監視)(14～27頁)について説明)

近藤委員：ありがとうございました。では、ただいまの常時監視の結果について、何かご意見、ご質問等ございましたらお願いします。

藤川委員：騒音に関してはNo.2が高い傾向がありますが、本事業以外に周辺で工事等は行われていましたか。

事業者：10～11月頃にNo.2の近くで倉庫の工事や道路のはつり作業、路盤撤去を行っていたことが影響していると考えております。

藤川委員：ほかの時期も含めて、全体的にNo.2で測定結果が高い傾向があるのは、道路における車両の通行が影響しているのでしょうか。

事業者：そのように考えております。

藤川委員：騒音に関する監視結果とは異なり、振動に関しては恐らく日曜日や土曜日に明らかに低い値を示していますが、やはり工事が休みの日には振動が減るのでしょうか。

事業者：グラフからも休日や長期休暇に振動が下がるのは明確ですので、工事の影響で振動が出ていると考えております。一方で管理値は超過しておりませんので、周りの方が不快に感じるほどの振動ではないと考えております。

山田委員：スライド7頁に対策フローが掲載されているのを見ながら話を聞いておりましたが、1次管理地を超過した場合には、工事を中止して原因を確認しに行くのでしょうか。

事業者：自主管理値というのが法的に定められた騒音や振動の上限値ですので、それを超過した場合のみ、工事を一時中断することとしております。

（事業者より資料5 4.環境監視結果（定期監視）（28～48頁）について説明）

近藤委員：ありがとうございました。では、ただいまの定期監視の結果について、何かご意見、ご質問ありましたらお願いいたします。

山田委員：結果まとめ（30頁）にも書いているとおり、汚染物質の発生源になり得ると考えられていた汚染土は撤去済みということですが、それ以降も大気質について計測し続ける必要性はあったのでしょうか。

事業者：工事にて粉じん等も発生しているため、それに対する影響も評価する必要があると考えております。

藤川委員：有害大気汚染物質において、ベンゼンは上昇トレンドがあるように見えます。環境基準の超過はないものの、ベンゼンは発がん性物質ですので、もし大阪全体で上がっているということであれば注意が必要ですので、大阪全体のトレンドと比較した方が良いと感じます。

事業者：大阪全体のトレンドも確認しましたが、北区周辺も含めて、2017年度から2022年度にかけて急激に増加しているような傾向は見られませんでした。

藤川委員：事後監視もありますので、そのときにも継続的に確認していただきたいと思います。

事業者：承知しました。

近藤委員：大阪市では0.002 μ g/m³程度の水銀が計測されるのが一般的かと思いますので、8月にその4倍ほどの水銀が計測されているのが気になります。それでも指針値は下回っているため、これ以降、異常値が計測されなければ特段気にする必要はないと思いますが、事後監視においても注意して監視していただきたいです。

事業者：承知しました。8月に異常値を計測した際も周辺工事等の確認を行いました、原因の特定には至りませんでした。今後もこのようなピークを示した場合には、周辺もモニタリングしながら確認していきます。

藤川委員：45頁に示されている低周波音については、2023年2月に北側でのみ高い値を示しています。これについて原因は分かっているのでしょうか。

事業者：平日だけ高い値を示していれば工事が原因だと考えられますが、休日でも高い値を示しているということもあり、原因については特定しかねています。こちらについても今後のトレンドを注視していきます。

山田委員：来年度からは施設が稼働するということで、これまでに想定された汚染土由来の環境汚染ではなく、処理水由来の悪臭等が生じることが考えられますが、計測項目や計測場所の変更等は考えているのでしょうか。

事業者：現状では具体的な計画はございません。しかし、ご指摘いただいたとおり新たな計測点もあった方が良いかもしれませんので、今後協議させていただければと思います。

大野課長：どのような場所で測定するのが今後のためになるのかということも含めて検討していきます。

近藤委員：今回建設された海老江下水処理場では、悪臭対策としてどのような対策を考えているのでしょうか。

事業者：悪臭対策としては水槽の上に蓋をするのが一般的ですが、今回の構造物に関しては二重覆蓋（蓋を設置した水槽を鉄筋コンクリート構造物で覆う）構造になっており、悪臭が外に出ないようになっています。

近藤委員：臭気自体を除去する装置は設置されていないのでしょうか。

事業者：海老江下水処理場には活性炭による脱臭設備も設置しておりますので、その設備にて臭気を吸い取る構造にもなっております。

以上